

いわきっ子入学支援（保幼小連携）システムの中間報告について

1 目的

何らかの配慮を必要とする子どもの「発達特性の早期発見」と「一貫性をもった切れ目のない支援」を目的に、平成 28 年度から、入学前の情報を入学する学校に伝達・連携する手段として「いわきっ子入学支援（保幼小連携）システム」（以下「入学支援システム」という。）の運用を開始。

2 事業概要

- ・ 学校が対象者（次年度に小学校入学を迎える子どもの保護者全員）へ、就学時健診の際に、「入学支援シート」を配布。
- ・ そのうち、提出を希望する場合は、保護者が、保育園や療育機関等と共同でシートを作成し、学校へ持参のうえ提出。
- ・ 受け取った学校は、必要に応じて関係機関を参集し「入学支援会議」を開催するなど、入学後の対応に活用。

3 開始までの経緯

平成 27 年度に、療育支援地域連絡会議（現：市こども発達支援連絡会議）の下部組織として「発達支援システム検討部会」を設置し、モデル事業（泉小、鹿島小、四倉第一幼）を実施。

平成 28 年度に、「入学支援システム運用会議」を設置するとともに、『いわきっ子入学支援（保幼小連携）システム運用の手引き』（市、市教育委員会）を作成し、本格実施。

なお、平成 29 年度からは、「療育支援地域連絡会議」及び「入学支援システム運用会議」を発展的解消し、「市こども発達支援連絡会議」を設置し、総合的かつ連続的な発達支援の推進を図る。

4 結果概要

(1) シートの提出状況

- ・ 全入学児に対しシート提出のあった児童は、591/2,457 件（24.1%）。
- ・ 一方、シート提出が想定されていた対象児童（障がい児保育加配対象児等）については、全数提出ではなかった。

(2) 運用について

- ・ 学校から、「保護者によって全員提出と勘違いしているケースがあった」との報告あり。
- ・ シート記入者が「保護者のみ」というものが 113 件（19.7%）あり。

(3) 入学支援会議について

- ・ 入学支援会議への子育てサポートセンターの出席が求められたのが 87 回中 2 回のみであった。

- ・ 入学支援会議への参集者が適切かどうか見極める必要がある。
(民間、行政内訳)。

(4) サポートプログラムの実施について

- ・ 全 67 校中、実施校は 1 校（泉小）のみであること。

5 今後の予定

(1) 分析

教育委員会においては、1 学期終了後に分析予定。来年度実施前までに整理。それらを踏まえながら、市こども発達支援連絡会議（旧：療育支援地域連絡会議）において、中間報告、分析、協議（全 3 回）を実施。

(2) 報告

ア 市こども発達支援連絡会議（旧：療育支援地域連絡会議）において、中間報告、分析、協議（全 3 回）を実施。

イ 児童福祉専門分科会において、中間報告、最終報告の実施。